

修学院小学校運営協議会だより

学校運営協議会理事長 青木 善男 修学院小学校長 浦杉 伸介



平成31年3月18日発行 家庭数配布

余寒の中にも、日差しの暖かみを感じられる季節になってまいりました。平素より、修学院小学校運営協議会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。さて、修学院小学校では、今月20日(水)に卒業式、22日(金)に修了式を迎えます。子どもたちとともに、この1年間を振り返り、新たな年号となる来年度に向かいたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

学校運営協議会理事会

7月4日(木)に「きらら給食」を実施し、学校運営協議会の委員が学校給食を味わい、子ども達と一緒に給食を味わい、交流をしました。

11月28日(水)には、「本のリユースフェア」を行い、保護者、地域の皆様から提供いただいた本を体育館に並べ、子どもたちが気に入った本を選び、お家にもって帰ってもらいました。子ども達の読書文化と物を大切に作る心が育まれました。

学校安全環境委員会

10月に不審者侵入避難訓練を行いました。校内に不審者が侵入してきたことを想定し、教職員は警察が来るまでの不審者対応と児童の安全確保訓練をしました。その後、体育館で、PTAの方々からクイズ形式で安全の話をしていただきました。また、下鴨警察署からも「入りやすくて見えにくい場所が危険である」との話を聞くことができました。

今年度、日々の子どもの安全を守り、子ども自身や保護者の方にも啓発するためにPTAが中心となり、見守り隊、学校安全環境委員会と共に時間をかけ、活用できる「安全マップ」にするために、リニューアルを行いました。各地域で安全面や防犯面で危険と思われる場所を示し、お家でお子様と話し合っただけのものとなっているますので、ぜひ活用ください。

学び支援委員会

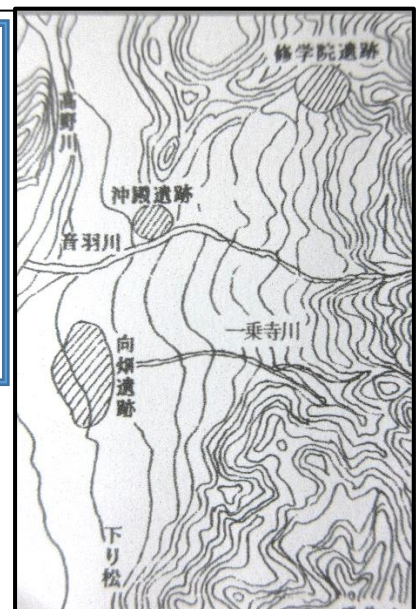
9月に1年生に向けて「お掃除おしえ隊」の取組を行いました。昨年度までは年明けに行っていましたが、今年度は1年生だけで掃除をするようになる夏休み明けに行いました。学び支援委員会や地域の方々から、汚れがたまる場所はどこか、雑巾の絞り方や拭き方を教えていただき、一緒に掃除をしていただきました。お家では雑巾で掃除をする機会が減ってきているのか、うまくしぼれない子もいましたが、子ども達が一人1枚の雑巾を持ち、一生懸命掃除をする姿が見られました。

3月5日(火)には、6年生を対象とした「伝統文化 茶道教室」を実施しました。作法やその意味を学び、お茶を楽しみました。心落ち着く時間となりました。

歴史散歩 学区内に弥生時代の集落がない訳！

比叡山のふもとに位置する修学院学区では、今から七千年前の縄文時代前期から人々が比叡山の恩恵を受け生活をしていました。しかし、お米を食べ始めた弥生時代の集落は見つかりません。等高線をご覧ください。修学院学区は、比叡山から流れる音羽川や一乗寺川によって形成された扇状地上に位置します。どの地点でも概ね東から西に傾斜していて、大規模な造成ができなかった弥生時代には、平坦面を必要とする水田が造れなかったのです。自然に順応しながら、生活圏を形成したことがわかります。なお、稲作が始まった頃の水田は、京都大学構内遺跡で見つかりしています。(小池寛)

扇状地形と縄文遺跡



開かれた学校委員会

1年に2回実施しております学校評価アンケートの、2回目の結果と分析をお知らせいたします。

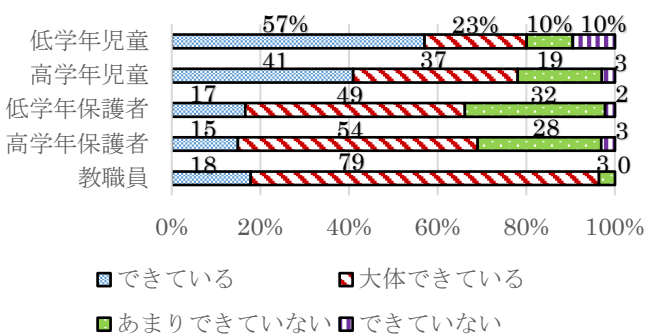
家庭と学校が協力して子どもたちの学校生活をより良いものにしていくために、児童・保護者・教職員が、自己評価という形で学校生活・家庭生活を振り返り行っているこのアンケートですが、今回は前回注目した項目の結果を受け、どのような変容があったかについて分析したいと思います。また、学校運営協議会の「開かれた学校委員会において、委員の方々に吟味して意見を頂いたものも合わせてお知らせさせていただきます。お忙しい中アンケートへのご協力ありがとうございます。修学院小学校をよりよい学校へすべく取組を進めていきたいと思っています。アンケートの項目につきましては「確かな学力」7項目、「豊かな心」8項目、「健やかな体」5項目ありますが、その中から抽出して結果と考察をお知らせしたいと思います。

すべてのアンケート項目について言えることではありますが、半年で劇的に結果が変わることはあまり見られません。ただし、今回の様に半年での変化や、経年変化に目を向けることで、修学院小学校に通う児童や家庭の傾向が見えて、取組の工夫に生かせることも見えてくると思います。引続きアンケートへのご協力をお願いします。

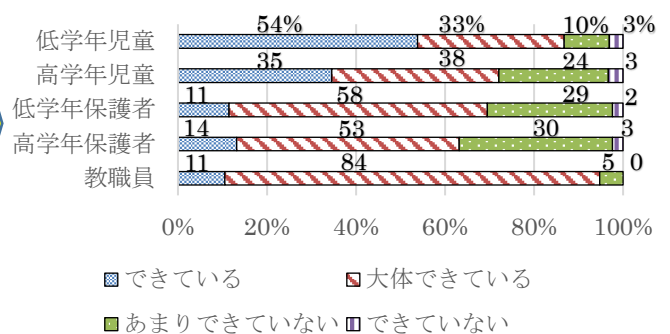
確かな学力定着に向けて～家庭学習と読書の習慣を～

「子どもは学校の授業がよくわかっている」の項目について高学年・低学年保護者とも「あまりできていない・できていない」の回答が高学年 17%⇒16%、低学年 14%⇒14%と変化が見られませんでした。児童の回答についてもほぼ同様の結果です。おそらく同一家庭・児童が同じ回答をしての結果と考えられます。学習に対して苦手意識をもっている児童に目を向けた授業づくりが課題と言えます。「授業中自分の考えを進んで話している」項目について、「できている・大体できている」と回答した児童が高学年 65%⇒64%、低学年 89%⇒80%とほぼ変わらない、あるいは微減と言えます。児童がこれからの時代を生きるために必要とされる力の一つ「表現する力」育成のために、自分の意見をのびのび表現できるクラスづくりや授業改善が課題です。

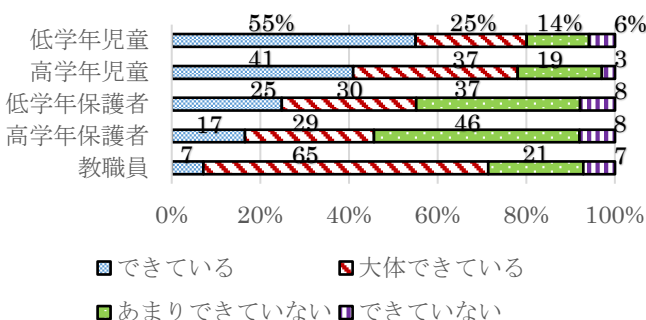
3. 家庭学習について



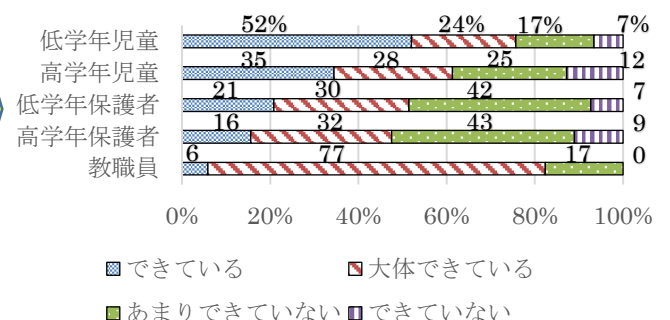
3. 家庭学習について



4. 読書の推進



4. 読書の推進



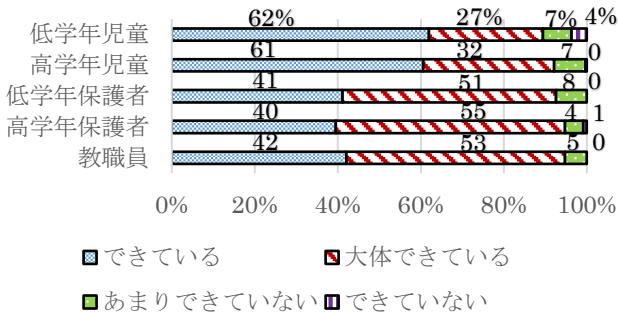
家庭学習について改善が見られたと言えるのは、低学年児童の「自分で計画を立てて家庭学習を行っている」の項目で、「できている・大体できている」の値が 80%⇒87%と上昇しました。これは特に1年生が学校生活に慣れ、生活のリズムも前期よりつかめたことなどが影響しているといえます。前回述べたように、家庭学習の重要性は今後増々上がってきます。宿題だけに留まらず、予習・復習をはじめ、自学自習の習慣化が必要です。

読書の推進について、教職員の回答が「児童に読書ノートの活用など読書生活の推進に向けて取り組んでいる」質問に対して、8割の教職員が「できている・大体できている」としています。一方「進んで読書をしている」質問に「できている・大体できている」とした低学年児童は 80%⇒76%で微減、高学年児童は 78%⇒63%で大幅減となっています。保護者回答については「読書を勧めている」質問に対してほぼ横ばい回答です。学校の取組が児童や家庭により広がるよう、さらなる工夫が必要です。

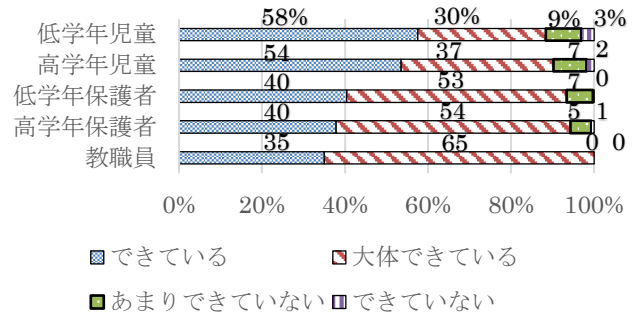
豊かな心を育むために～人を大切にするために 一人一人ができること～

「友だちと仲よくしている」という質問に対して、夏冬・低学年・高学年共に 95%以上の児童が「できている・大体できている」と回答しています。数人の児童が「できていない・あまりできていない」ことについて注意することは忘れず、結果については嬉しい事と受け止めます。ただし、これまで以上に多文化共生社会を迎えていく中で、友だちに限らず「誰とも仲良くする・理解し合う」ことのできる児童を育めるよう、学校として働きかけを常に継続していきたいと思ひます。

2.進んであいさつすることについて



2.進んであいさつすることについて

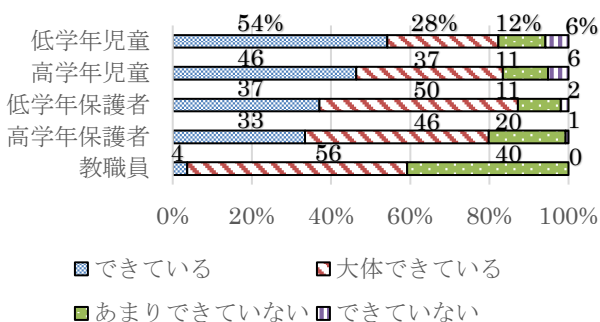


夏に行ったアンケート結果で注目した『丁寧な言葉づかいについて』の項目では、低高学年児童共に横ばいの回答結果示しました。「子どもが丁寧な言葉づかいができるよう家庭でも意識して話している」という質問に「できている・大体できている」と回答した低学年保護者が 67%⇒72%,高学年保護者が 72%⇒77%と増していることから、保護者の方々の意識の向上が見られます。同様に「進んであいさつすることについて」の項目も結果だけ見ると全く横ばいといっている状況ですが、教職員の声を聞くと「進んでのあいさつはなかなか見られない」「こちらがしても返ってこない」などが挙がっています。社会に出て必要なあいさつをまずは家庭や学校内でしっかりできる習慣を子どもたちには身につけてほしいと思ひます。

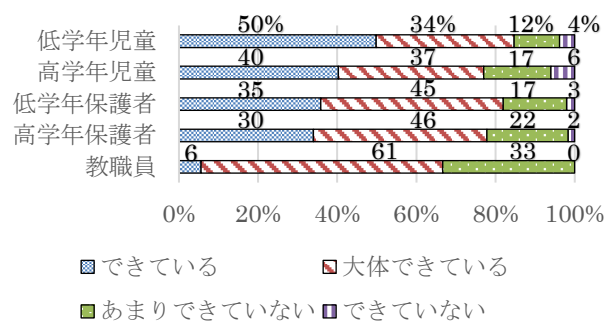
健やかな体で楽しい毎日を～よりよい学校生活は、 健康な体づくりから～

『遊びなどを通してよく体を動かしている』という質問に対して、夏冬・低高学年共に児童は9割前後が「できている・大体できている」と回答しています。運動委員会主催の大なわ大会などもあり、児童がクラスみんなで休み時間に運動をする姿が冬場も見られました。子どもに任せきりではなく、子どもが自ら動かしたくなるような取組を今後も学校として増やしていきたいと思ひます。『好き嫌いなく給食を食べている』質問に「できている・大体できている」と回答した児童は夏秋・低高学年共に 85%ほどになります。学校では食育も大切にしています。「嫌いだから食べない」ではなく、「自分で食べられる分量を決めて食べる」ことを指導しています。ご家庭でも子どもたちの栄養の為、豊かな食生活のために、様々な食材・料理に目を向けて、子どもたちが食の楽しみを得る機会を増やしていただければ、と思ひます。

1. 生活習慣について



1. 生活習慣について



夏に行ったアンケート結果で注目した『登下校の安全について』の項目では、夏冬、低高学年児童・保護者・教職員ともほぼ横ばいの結果でした。いずれも 90%以上が安全について気をつけたり声をかけたりしていますが、気をつけていても「～かもしれない」危険予測をこれからも常に大切にしてほしいと思ひます。また、『生活習慣について』の項目では、高学年児童、低高学年保護者の回答で微減の結果でした。学校生活への慣れや、高学年になり習い事などで夜が遅くなり生活習慣が乱れがちになるのが要因の一つと考えられます。何をするにも健康な心と体が基本である事だけは常に大切にできるよう、学校からも働きかけたいと思ひます。

各学年より

1 年生

「計画を立てて家庭学習を行っている」と考えている児童が増えました。保護者の方の声かけのポイントも上がっているので、ご家庭のご協力によるところが大きいようでした。「進んで読書をしている」児童の回答が大きく下がり、保護者の方も半分ほどは勧めて頂いているようですが、ご家庭でも読書の推進をお願いしたいです。

2 年生

学級によって児童の「できている」と思っている割合に多少のばらつきがありましたが、夏より改善されている所も見られました。しかし、まだ同じような傾向は見られるので、自己肯定感を上げていける声かけの必要性を感じました。一つのことを伝えるにしても、どのように伝えるとよいのか、指導方法を追求していくことが大切だと思いました。

3 年生

確かな学力の質問について、「できている・大体できている」の回答が上昇もしくは、90%を超えているのは学習についての取組の効果がいい方向に表れているのでは、と喜んでいます。また、「家庭で翌日の準備をしている」「学校であったことを家庭で話している」の回答から、低学年で出来ていたことを、成長と共にやらなくなっている状況もあるようでした。

4 年生

確かな学力の質問項目「計画を立てて家庭学習」「進んで読書」「授業中進んで自分の考えを話す」について「できている・大体できている」回答が6割程度に留まりました。学力調査の結果などと合わせると、これらの項目で肯定的に回答できるようにする授業改善や、取組を進めていくことで、学力も向上してくるのではないかと考えました。

5 年生

学力面で学習がわからないと感じる児童が少ないうえにもいるので、個別指導の必要性を感じました。また、夏よりも、子ども達が自己の現状について理解できるようになったことで、自己評価の基準が高くなっているのではないかと考えました。それにより、これまではAやBと回答していた児童がB、Cと回答したのだと感じます。

6 年生

ほとんどの質問項目で「できている・大体できている」回答が9割を超えていますが、「進んで読書をしている」が8割、生活習慣については夏より14ポイントとなっています。6年生は習い事などで忙しく生活習慣も乱れがちで読書の時間も取りにくいことが要因と思われるが、読書のよさを授業を通じて広げていきたいと思っています。

ひまわり

自分の生活をふりかえることがなかなかむずかしい中でも、「すすんであいさつしている」「ひとをたいせつにしている」「ともだちのがんばりをみとめ、はげまし、たすけあっている」質問に対して「できている」と答えているように、友だちとのかかわりを大切にする気持ちがみられることをうれしく思っています。

開かれた学校委員会より ◇… 委員さんからのご意見 ⇒学校長より

◇「進んで読書をしている」質問について児童の「出来ている・大体出来ている」回答の値が低いだけでなく、保護者に対する「読書を勧めていますか」の質問の回答率も「出来ている・大体できている」回答が40～50%に留まっているように、非常に低いことが気になります。

◇一概に全ての家庭で読書をするのが簡単ではないこともわかるのですが、学校ではどのような取組をされていますか。

⇒学校では、朝の常時間に読書の時間を設定して読書を推進していることと、1年の中で「6月・11月・2月」に「あじさい・もみじ・さざんか読書週間」を設けて1週間いつも以上に読書を推進しています。読書からは語彙力や想像力などたくさん得られるものがあるので、授業の中で図書館に行く時間を大切にしたり、国語の授業で様々なジャンルの作品に触れる機会を持つようにしたりするなど、学校での読書体験を機に、家庭でも本を手取るようになってほしいと思っています。

◇低学年で「自分で計画を立てて家庭学習を行っている」割合が増えたことはいいことだと思います。学校の勉強の定着を宿題で確かめることが大切だと思うからです。宿題がなかったら、家庭でなかなか勉強する時間がもてないということもあると思うので、宿題はやはり出してほしいと思います。

⇒学校では「漢字・算数・音読」の宿題を主に出しています。学習したことの繰り返し練習による定着はもちろん大切ですが、同じくらい予習もしてほしいと考えています。実際のところ家庭で予習と言えるのは音読くらいになっているので、自学自習の習慣化と共に、勉強の仕方も身につけていけるように工夫していきたいと思っています。

◇PTAの活動であいさつ運動をしても、こちらがあいさつをする前にしてくれる子が多いという印象があります。自転車でも来て門を開けてくれたり、学校に来てもらってさみしい思いをしたことはありません。

◇「人を大切にしている」ことについても「友だちと仲よくしている」ことについても95%以上が「できている・大体できている」と回答していることから、人権に関する結果が非常にいいと思います。どんな取組があるのですか。

⇒学校では毎月10日を「なかよしの日」として、人権について1年間をかけて様々なことを学び考える機会を設けています。また、12月の人権月間にも各クラスでみんながもっと笑顔になるためにどうしたらいいか考えて掲示物を作っています。学校のそのような取組はあるのですが、子どもたちのやさしさを育てているのは何より地域の温かさだと思います。この地域は人が本当に温かい。見守り隊の方やPTA地域の方が、子どもたちに進んであいさつして下さったり、困っていたら声をかけていただいたり、そういった地域の温かさが子どもたちのやさしさにつながっていると思います。人権のことで言うと、これからの時代どんな価値も受け入れる心が大切ですが、優しい修学院の子どもたちがそのような大人になれるように学校も取組を進めていきます。